ふれあいセンター訪問事業課の現状と未来

錦　織　理　恵

キーワード：地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システム；訪問看護師倍増対策；病院内外来－病棟－在宅の連携

（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 109-111）

はじめに

公立雲南総合病院時代の1992年８月から開始された退院患者への保健師による訪問看護指導は、1997年４月に大東町外９カ町村雲南病院組合の訪問事業としての「指定訪問看護ステーションうんなん」開設につながり、現在に至るまで雲南圏域の在宅療養者の支援を続けている。

ふれあいセンターの現状

設立当時16人だった看護師数は約20年で半数以下となり、現在の６人になっている（**図１、２**）。内訳は、正規職員３人、非常勤３人で24時間365日の対応（待機）を、行っている。リハビリテーションスタッフは、理学療法士（PT）２名、作業療法士（OT）１名、病棟と兼務の言語聴覚士（ST）１名で、STの訪問は雲南市では当院のみであり、訪問依頼も増えている。事務員は１名で、各所への書類の依頼や、コスト管理、制度に関する助言等、外へ出て行かなくてはならない管理者の、サポートを行っている。看護の業務内容は、健康状態の観察と助言、医師の指示による医療処置、日常生活の看護、リハビリテーション、認知症ケア、終末期ケア、介護予防等で、雲南市内の病院、開業医のみならず、近隣市町村の病院からの指示により訪問を行っている（**図３**）。訪問地域は雲南圏域全体を担っており、現在は、雲南市外では奥出雲町にも出かけている（**図４**）。

図１　2019年スタッフ一同

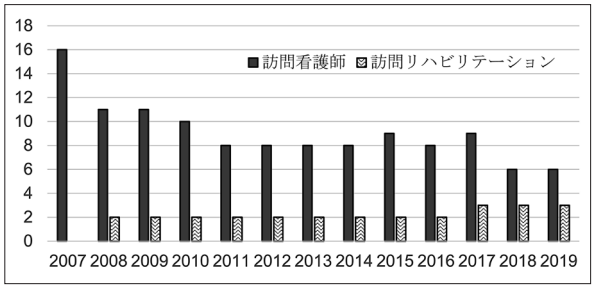

図２　スタッフ数の推移

利用者は、2019年６月単月では103名で、2018年度からそれまでリハビリテーションのみの契約で訪問を行っていた方にも定期的な（３ヶ月に１回程度）看護の訪問が義務づけられ、看護師はその方々を含めた全利用者の訪問を行っている。うち、看護師のみによる

雲南市立病院ふれあいセンター訪問事業課、指定訪問看護ステーションうんなん
著者連絡先：錦織理恵　雲南市立病院ふれあいセンター訪問事業課〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

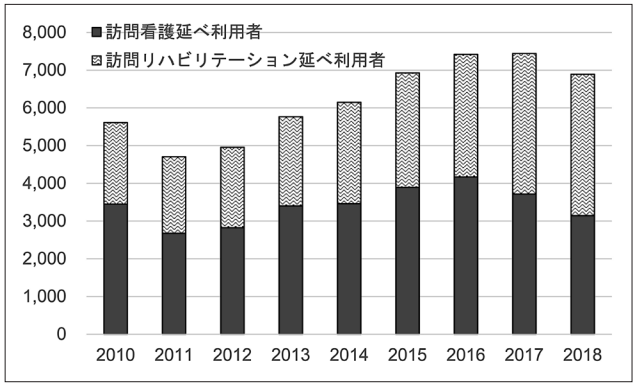

図３　年間利用者延べ人数の推移

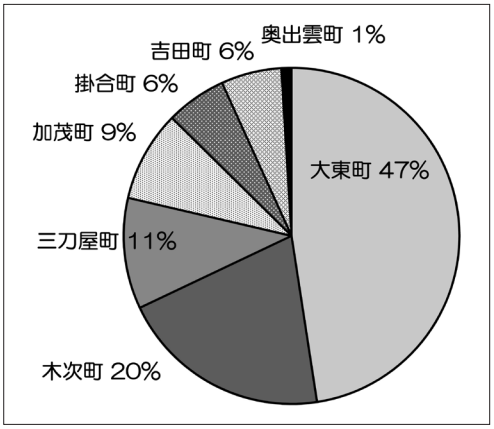

図４　訪問地域（219年６月）

訪問71名となっている。なお、単月集計のため、入院中や長期のショートステイ中などの登録者は訪問ができず含まれていない。2019年６月単月では、訪問対象は、小児から高齢者までの全ての年齢で、特に80歳以上が60％以上を占めている（**図５**）。男女比は、男性が56％とやや多く（**図６**）、また、52％が要介護（１～５）で、25％が医療保険での訪問看護となっている（**図７**）。利用者の疾患は脳血管疾患、神経難病、骨折後、呼吸不全、悪性腫瘍等と多岐にわたり、複数の疾患を抱えていることも多く、それぞれの疾患やステージ（慢性期、終末期など､）、医療依存度（経管栄養、吸引、留置カテーテル、酸素吸入、人工肛門、気管カニューレ、人工呼吸器、腹膜透析、脳深部刺激療法（deep brain stimulation、DBS）の管理、看取りやグリーフケアなど）に応じた関わりもしている。

訪問業務だけでなく、連携業務も重要で、日々の訪問で得た情報を関係各所へ発信し、対応を検討したり、新規介入や退院後の訪問再開の際には、入院施設での利用者の情報共有の会議に参加し、利用者のサービス変更、介護保険更新に係るタイミングや、困難事例がある時は担当者会議に参加し、他職種との連携を図っている。在宅では、いかに利用者（家族も含めた）の負担（身体、精神、経済的）を最小限にとどめるかが重要であり、各種保険制度や福祉制度の適切な利用等にも関わっている。また、人材育成として、県内看護学生の臨地実習、研修医の同行見学、認定看護師見学実習等の受け入れや、雲南市内へ向けた出前講座、小学校児童への講義なども行っている（**図８**）。

未　来　へ

国の地域包括ケア推進に伴い、在宅サービスの充実は急務である。日本看護協会の2019年度重点政策の中

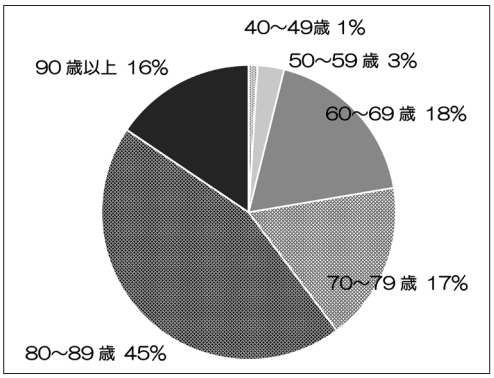

図５　利用者の年齢構成（2019年６月）

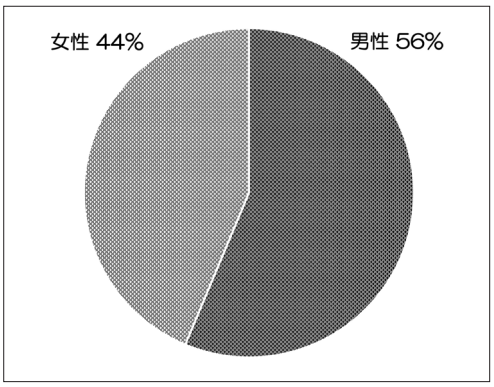

図６　利用者の男女比（2019年６月）

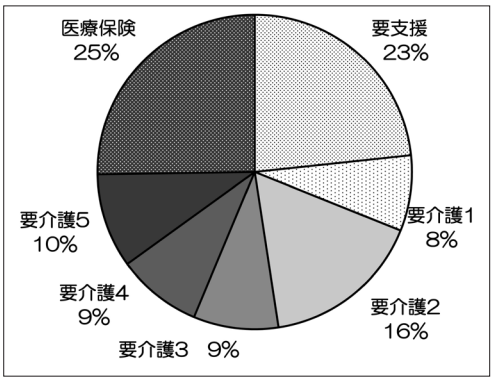

図７　利用者の介護度（2019年６月）

図８　ふるさと教育（小学校訪問）

の「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築」の４つの柱のうち、「地域包括ケアの実現を支える看護機能連携システムの構築」と「訪問看護師倍増対策の推進」は、現在の当ステーションの課題でもある。

看護機能連携システムの構築については、ステーションだけの問題ではないため、まずは院内の外来－病棟－在宅の連携方法等について、確立していく必要がある。看護師増員については、訪問看護出向事業や相互研修事業など、病院とステーションとの連携や、新卒訪問看護師育成プログラムの作成・取り組みは島根県でも行われている。当ステーションは、規模やマンパワー的にも、それらの事業には直ぐに参加できないのが実情だが、それらに参加できるように環境を整え、院内へ働きかけることも必要と考える。また学生実習の中で、在宅看護に興味を持つ学生が多いことを実感しており、その意欲が持続され、訪問看護師として活躍してくれることを期待している。

上記をふまえながら、雲南市立病院に併設されていることのメリットを活かして、地域の住民の方々のより安心できる生活を支援していきたいと考えている。

地域医療日本一をめざして。

Present status and future perspective of the division of visiting home healthcare in Unnan City Hospital.

Rie Nishikori

Division of visiting home healthcare, Home nursing station Unnan, Unnan City Hospital
Correspondence: Rie Nishikori, Home nursing station Unnan, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp